

クラス番号	616	担当教員名	後藤 澄江
テーマ	家族の福祉機能の変容に対応した地域での福祉専門職と住民の連携		
著書・論文 研究課題等	【現在の研究課題】 地域社会に暮らす困難を抱えた方々の生活実態と必要な支援の把握 （愛知県子どもの貧困の実態と支援のあり方を見出すための子ども調査への参画） コミュニティでの助け合い構築に向けた連携（組織、つながり、ネットワーク）のあり方検討 【関連する著書】 『ケア労働の配分と協働 -高齢者介護と育児の福祉社会学』（東京大学出版会）		

ゼミナール概要

キーワード：家族機能，地域コミュニティ，子育て，高齢者介護，社会福祉協議会，共助社会づくり

目的・方法・内容等

私のゼミは，今日の家族による子育てや介護等のケアの現状と課題を把握するとともに，そうした動向への対応として地域コミュニティや行政等においてどのような新しい取り組みが必要とされるのかを，若いあなたたちと一緒に学び，考え，訪問調査をおこない，できれば実践に参加することを目的としています。

家族はいつの時代にも，子育ての場として重要な役割を果たしてきました。衣食住の充足はいうまでもなく，子どもの教育や情緒の発達にも大きなはたらきを担ってきました。しかし，今日，そのような家族の機能に黄信号がともっているともいわれます。児童虐待の増加や子どもの社会性の低下といった現象が家族の育児・教育機能の弱体化を暗示するものとなっています。また，今日の家族は高齢者に対してもそのはたらきを変化させています。とくに高齢者介護の面においては，家族はその受け皿を縮小しています。過度に負担がかかると家族は崩壊してしまいます。夫婦のみで暮らす高齢者の場合，また，3世代で暮らす場合，どのような支援が必要なのでしょう。

このように今日の家族は子どもや高齢者といった世話や介護を必要とする人に対するはたらきを弱めています。弱まっている家族のはたらきを支えたり補ったりするものとして，地域コミュニティを基盤とした助け合い・NPO活動（互助・共助）や公的なサービスの充実（公助）への必要が高まっています。

目的 1：「どのような条件を抱えた個人や家族が，どのような福祉課題・問題に直面しながら，今日の地域コミュニティの中で暮らしているのか」を把握する。

目的 2：「個人・家族の力のみでは解決困難な福祉課題・問題を解決するために，行政・社会福祉協議会・福祉専門職に加え，地域コミュニティを基盤とした住民組織やNPOがどのような取り組みをしているのか。また，どのような連携（つながり，ネットワーク）を形成しているのか」を理解する。

目的 3：1 分間スピーチ，文献の抄録づくり，問いづくり作業やディベート訓練を通してコミュニケーション力を向上させること，訪問調査の準備と聞き取り作法，また，グループワークの運営方法などの技法を身につける。

授業計画

2 年間のゼミの大きな流れとして以下のように考えています。

<3 年次前期> グループワーク中心

- ・文献購読や訪問を通して，今日の家族の子育てや介護をめぐる現状や問題点を発見・把握。
- ・地域コミュニティを基盤とした子育て支援や高齢者健康づくりなどの新しい取り組みについて情報を収集・整理。
- ・小グループ単位で学習・調査したものを発表。同時に，全体ゼミのなかでの活発な意見交換を実施。

<3 年次後期> 実習semester中の個別指導＋グループワーク

- ・訪問調査の報告書作成，卒業論文執筆に向けての準備開始，小グループ単位での前期の学習・調査の継続実施。

<4 年次> 個別指導＋グループ指導

- ・卒業論文執筆と社会福祉士国家試験に向けて共同で学習。

担当教員からのメッセージ



ゼミは学習の場であることにとどまらず，ゼミ員相互に成長を育む場です。ゼミの一員としてのルールと責任を自覚して参加しましょう。その上で，「学び」と「遊び」のメリハリを大切にしたいですね。

フィールド訪問調査に興味がある人，グループワークが好きな人，ゼミコンの企画上手な人，活発で明るい人集まってね。